

# 多収品種や粳米サイレージの導入で 飼料用米のコスト低減

## 概要 Abstract

- 北海道では飼料用米の作付けが拡大しています（28年：2,770ha、生産量約1万6千ト）。  
→栽培方法は多様であり、特徴を踏まえた投下労働時間や生産費の解明が必要です。

本研究では、右記4つの栽培方法に注目して、実態調査（各3戸）を実施しました。比較のために、「主食用と同等」の栽培についても調査。

多収品種

粳米サイレージ

直播（乾田）

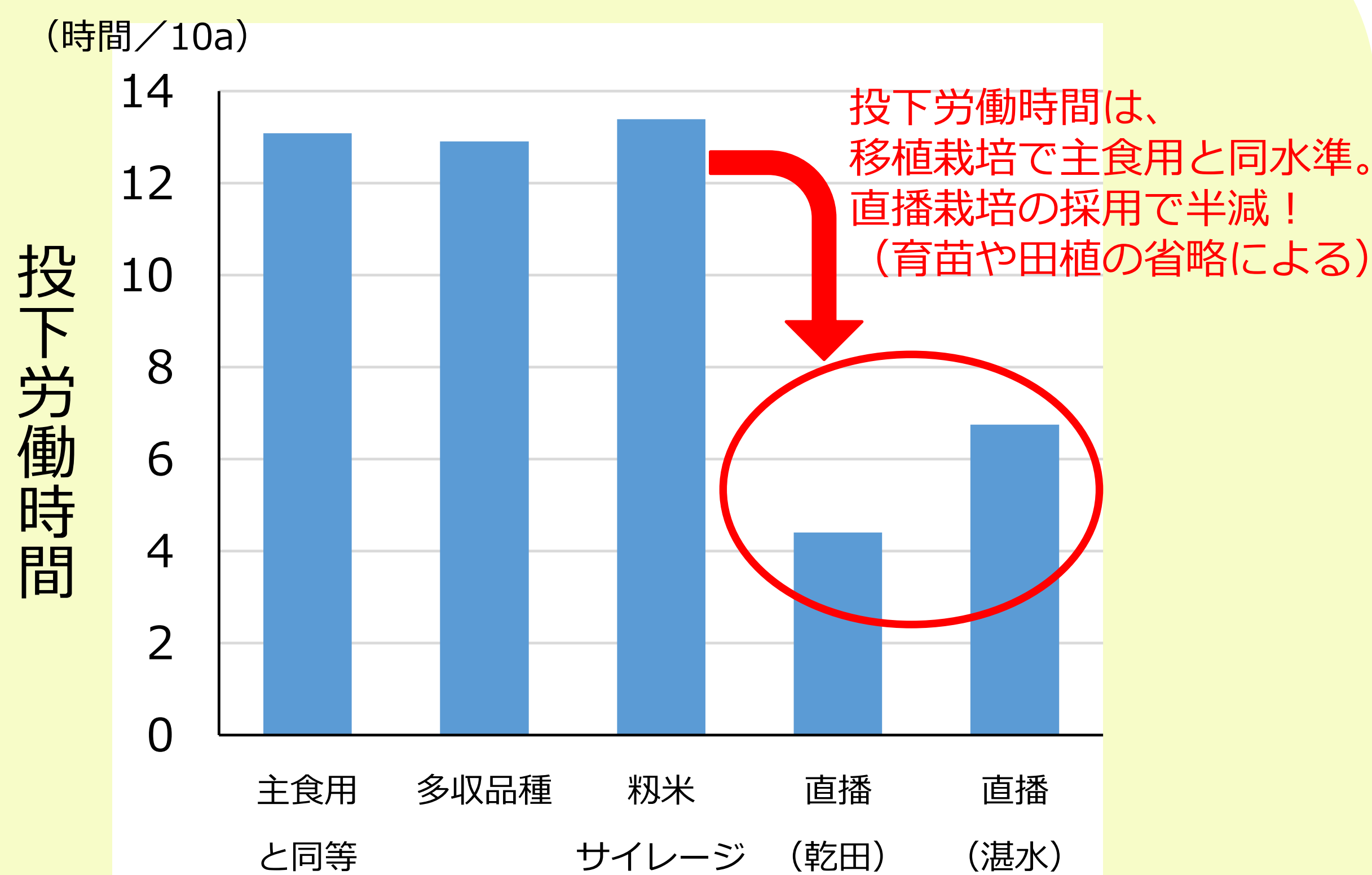
直播（湛水）

「多収品種」：「需要に応じた米生産の推進に関する要領」（平成28年4月1日一部改正）で区分され、飼料用等に育成された子実収量の多い品種や知事特認品種が含まれます。  
「粳米サイレージ（SGS）」：Soft Grain Silageの略。粳米や玄米を破碎、加水し、発酵調製した飼料のこと。保存性や嗜好性に優れ、濃厚飼料の代替として利用されています。

- 飼料用米の収入は交付金に大きく依存しています→交付金を考慮した経済性評価が必要です。

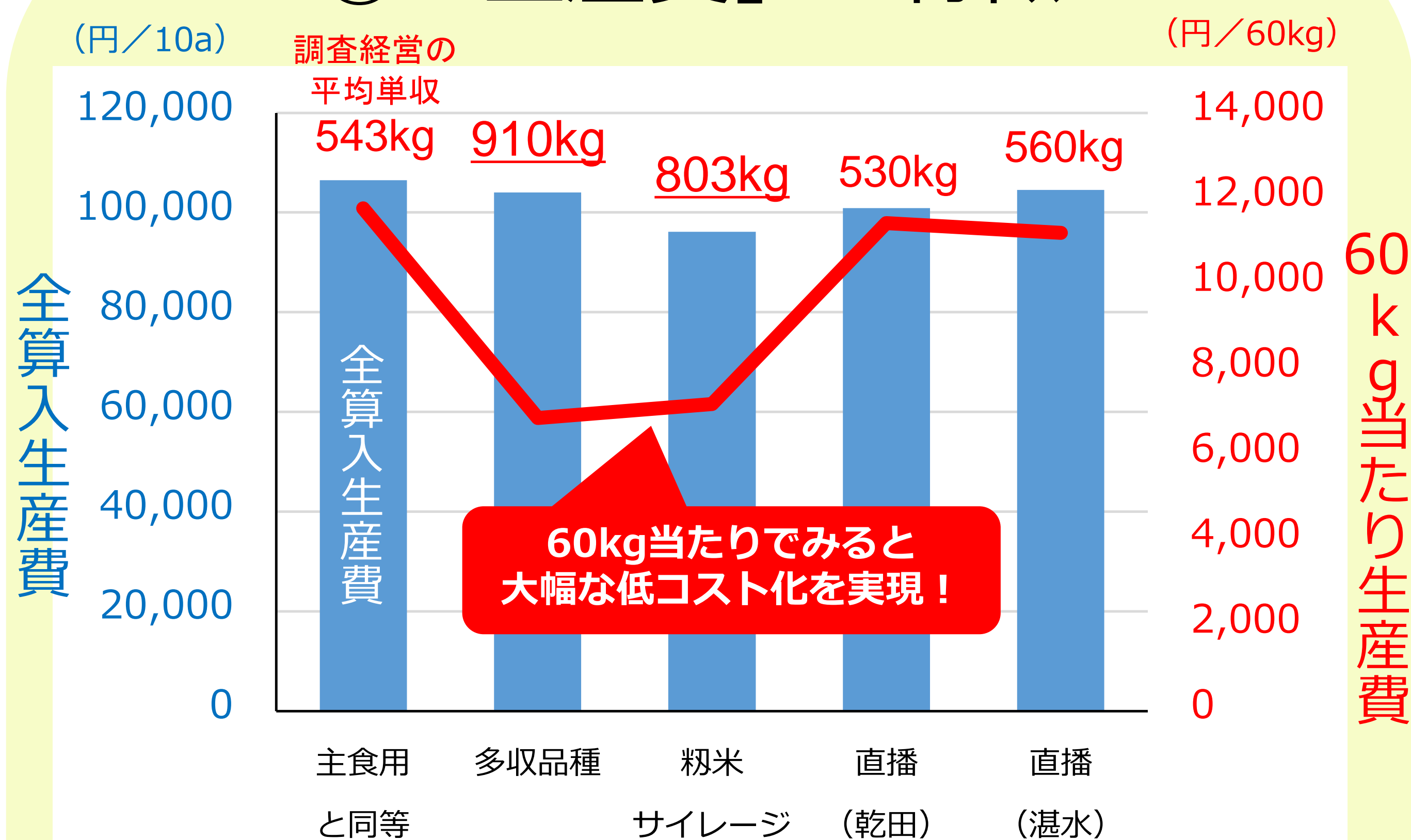
## 成果 Results

### ①「投下労働時間」の特徴



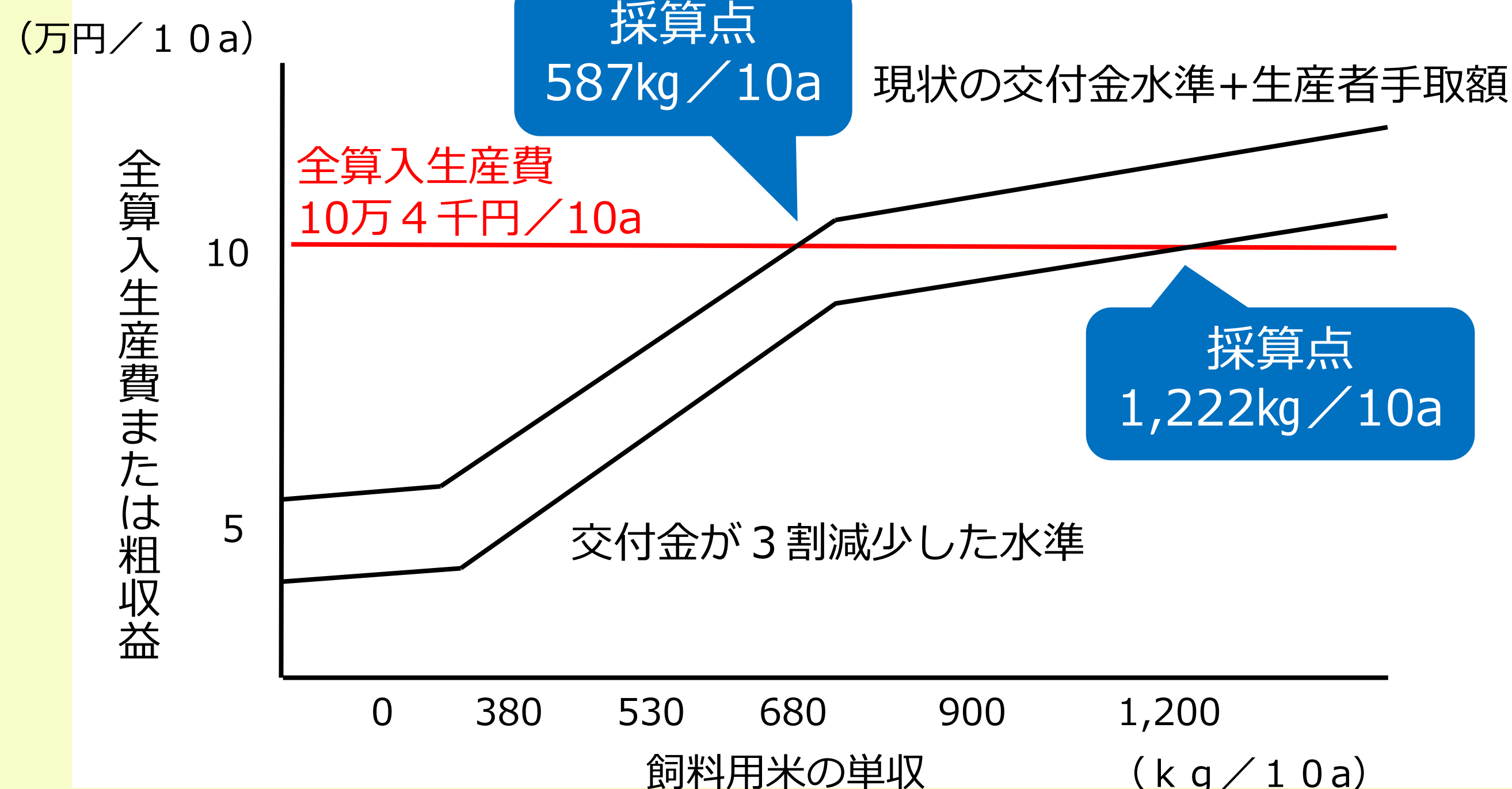
- ・直播栽培の採用で、春期の省力化が可能  
→水稲作付拡大を図る経営にも導入が期待！

### ②「生産費」の特徴



- ・飼料用米生産への特化と増収で低コスト化  
→収入の増加に貢献します！

### ③交付金の動向を反映した経済性評価



#### 【経済性評価の前提】

- ・生産者手取額は、輸入飼料用とうもろこしが基準：約25円/kg  
→粗収益の交付金に依存する割合が高い背景
- ・多収品種（移植栽培）の全算入生産費を基準
- ・標準単収値：530kg/10a
- ・交付金は「水田活用の直接支払交付金」のみを考慮

#### 【経済性評価の結果】

- ・現状の交付金 → 採算点は、587kg/10a
- ・交付金3割減の場合 → 採算点は、1,222kg/10a

交付金が減少すると、採算点となる単収が増加！  
→安定生産に向けて、飼料用米生産への特化が不可欠！  
(全算入生産費を把握すると、道内各市町村、地域別に採算点を算出できます。)

## 普及 Dissemination

- ・本成果は、飼料用米生産の導入を検討する際に参考となります。
- ・飼料用米生産に係る経済性評価は、平成29年度経営所得安定対策等の交付要件に基づきます。

## 連絡先 Contact

中央農業試験場  
生産研究部 生産システムグループ  
0123-89-2001  
central-agri@hro.or.jp